



祭りに集まった子ども会の皆さん。1番目のみこしを担ぎました

その中にアメリカ人親子を見つけました。今年4月に移住したという、母親のモア・シーナさんと娘のジェプソン・ナビアさんです。ジョージア州出身のモアさんは、熊本のインターナショナルスクールで教師をしています。「近所の人たちはみんな優しく、気さくに声をかけてくれます」と、ここでの暮らしをとても気に入っているそうです。娘のナビアさんも、同じ年頃の子どもたちとすつかり打ち解けていました。中坂拓也さんと妻の紗織さん夫婦は4人の子どもたちと参加。拓也さんは「実家が隣なので、安心して子育てができます」と子どもたちの法被姿に目を細めます。

そして午後4時。「ドーンドーン、ワッショイッ!! ワッショイッ!!」。太鼓の音が鳴って、元気なかけ声と共に子どもみこしが発しました。

体操で 体を動かしたら おしゃべりに 花咲かせ

毎週金曜日、大峯公民館では「ましき元気教室」が開かれており、地区のご婦人たちが楽しく汗を流しています。「小一時間ほど体操をして体を動かした後は、楽しいおしゃべ



上／公民館で元気に体操をしていた皆さん。手前左から鈴木さん、井島禮子さん、脇山さん、福島さん。奥左から田嶋京子さん、小川庸子さん、大串道子さん
中／「錢太鼓を広めたい」と頑張っている小峯のキャンディーズ



下／毎年公民館に飾られるひな人形（写真提供＝脇山さん）

りで口を動かします」と口をそろえる皆さんの実年齢を伺ってびっくり。どなたも10歳以上は若く見えます。

「毎年1月には、公民館にひな人形を飾るんです。最初は私物を飾っていたんですが、各方面から寄贈していただき、年々盛り上がりを見せています」と話すのは、生まれも育ちも小峯という脇山ヒサ子さんです。また脇山さんは仲間と一緒に、島根県の安来節の余技としておなじみの「錢太鼓」を使った踊りを町内のサロンなどで披露しているそうです。

錢太鼓は紅白に装飾した2本1組の筒で、筒の中に小銭を入れて音を鳴らしたのが名前の由来。「筒はラップの芯で作っています。中に小銭を入れ、さらに鈴を付けるといい音が鳴るんです」と福島妙子さん。振り付けは鈴木美枝子さんが担当。「一曲は『お猿のかごや』などを用いて、誰でも覚えやすい振り付けを考えます」と鈴木さん。

「錢太鼓の楽しさを町中に広めたい」と、小峯の錢太鼓キャンディーズは張り切っています。